HAWORTH

ニューロダイバーシティ（神経多様性）デザインガイド



すべての人が活躍できる
環境を創る。



あらゆる人のためのデザイン

人間の脳はさまざまな形で機能します。これをニューロダイバーシティと呼びます。ニューロダイバーシティに配慮したデザインは、誰もが活躍できる環境を育みます。このガイドでは、ニューロダイバーシティを受け入れ、エンゲージメント、ウェルビーイング、パフォーマンスの向上につながるワークプレイスをデザインするための洞察やアプリケーション、ソリューションを紹介します。

目次

ニューロダイバーシティ（神経多様性）インサイト

05 トレンド

07 ニューロダイバーシティのためのデザイン

10 調査＆知識
- 10 脳の差異を理解する
- 14 8つの感覚
- 18 インクルーシブデザイン
- 20 ワークプレイスにおける感覚体験
- 24 ワークプレイスにおける支援

ニューロダイバーシティ（神経多様性）アプリケーション

26 フロアプレートに関する考慮事項

29 フロアプレートのサンプル

31 レセプション

33 ワークカフェ

35 コミュニティ

37 ワークステーション

43 ライブラリーラウンジ

45 フォーカスルーム

47 リフレッシュルーム

49 個別のコラボレーションスペース

51 オープンコラボレーションスペース

53 アコースティックブース

ニューロダイバーシティ（神経多様性）ソリューション

56 プロダクトカテゴリー



ニューロダイバーシティ（神経多様性）

インサイト

多様な思考を受け入れるスペース

ニューロダイバーシティデザインにおける9つのトレンド

先進的な組織は、誰もが活躍できるワークプレイスを創出します。これには、考え方やコミュニケーションの取り方、環境の感じ方が異なる、ニューロティピカル（神経典型）の従業員とニューロダイバージェント（神経多様）の従業員の双方が含まれます。リサーチを通じて、ヘイワースは、インクルーシブなスペースと文化をデザインするうえで重要な観点を網羅した9つのトレンドを定義しました。



ニューロダイバージェントの従業員の増加

世界の労働者の間で、神経多様性を申告する人が15〜20%増加しています。Z世代の半数以上がニューロダイバージェントであることを自認しています。2030年までに、この世代は労働者の30%を占めるようになります。そのため、組織はよりインクルーシブなサポート戦略とインクルーシブなデザインソリューションを開発する必要に迫られるでしょう。



感覚過敏性

環境要因は、ニューロダイバージェントの従業員のワークプレイス体験に大きく関係しています。感覚過敏は併発することが多く、ニューロダイバージェントの人の65%が音と光の両方に過敏性を示しています。温度と触覚要素を慎重に考慮することで、快適性と生産性を大幅に向上させることができます。



ワークプレイスにおけるストレス管理

ニューロダイバージェントの人の89パーセントが、ワークプレイス環境がストレスのレベルに直接関係していると答えています。専用の静かなスペースと体系化されたサポートシステムを導入した組織では、ストレスレベルの報告が著しく減少しています。

メンタルヘルスの統合

多くの組織は、ストレスや認知的負荷を軽減するのに役立ち、また、集中力、快適さ、さらにインクルージョンをサポートすることが実証されているデザインソリューションを優先しています。ニューロダイバージェントの従業員の85%が、ワークプレイスのストレスがパフォーマンスに影響すると報告しています。



ニューロダイバーシティと戦略的デザイン

従来、企業は環境調整や配慮の提供について、必要性が明らかになった後で対応するという受動的な姿勢を取ってきました。現在、組織はニューロダイバーシティの配慮をデザイン戦略の基盤に積極的に組み込んでいます。これにより、インクルーシブなデザイン原則を通じて全従業員に利益をもたらす、適応性の高いワークプレイスが実現します。

文化とポリシーへの影響

ニューロダイバーシティを受け入れる方針を実施し、インクルーシブな文化を提供する組織は、従業員の定着率、チームの革新性、またワークプレイス全体の満足度を測定可能な形で向上させることができます。データによると、ニューロダイバージェントの従業員の定着率は最大30%向上させることが可能です。



人材最優先のアプローチ

主要企業におけるワークプレイス環境は、もはやケースバイケースで個人のニーズに合わせて後付けで調整されることはなくなっています。むしろ、組織は多様な思考様式を支えるインクルーシブな戦略を基盤から構築しています。これにより、ニューロダイバージェントの従業員の革新性、問題解決能力、さらに分析的思考といった才能をより効果的に活用できるようになります。



テクノロジーによるパーソナライゼーション

環境を個人がコントロールできるスマートなワークプレイスソリューションが、ニューロダイバージェントの従業員の満足度とパフォーマンス向上に関連付けられることが多くなってきています。



ハイブリッドワークの進化

組織の約75%がハイブリッド勤務モデルを導入しています。さらに、平均的なハイブリッド勤務スケジュールは、3日間はオフィス勤務、2日間はリモート勤務で構成されています。

ニューロダイバーシティを考慮したデザインはなぜ重要か

帰属意識の文化を育む

労働者が多様であることが、あらゆる組織に多くの重要な利点をもたらしています。あらゆる調査は一貫して、多様な従業員を支援することの肯定的な影響を示しています。

ニューロダイバーシティは組織にとって貴重な資産であり、新たな視点、創造的な問題解決、そして革新性の向上を促進します。ニューロダイバーシティへの配慮をデザインに取り入れることは、個人だけでなくチーム全体やコミュニティを強化します。

ご存じでしたか？ 従業員のニーズを優先する組織は、一般的に優秀な人材の採用と定着においてより成功しています。インクルーシブなワークプレイス環境の構築は、この目標を達成するための重要な一歩です。

主な調査結果：

50% 上昇
スタッフが評価され支援されていると感じたときに報告される従業員の定着向上率の増加率。

70% 向上
多様なチームがある企業における新規市場獲得の実績の増加率。

35% パフォーマンスの向上
チームが多様であるため、新規市場への参入確率が70%高くなっています。

労働者が多様であることの強み

見過ごされている才能を活用する

ニューロダイバージェントの人は、生産性、品質、革新性、そして関与度を大幅に向上させ得る独自の強みを有しています。しかし、その潜在能力にもかかわらず、このグループは依然として労働者の中で最も過小評価されている層の一つです。



ヒント

個人を指す際には「ニューロダイバージェント」という用語を使用します。（例：ジェスはニューロダイバージェントであることを自認している。）

見過ごされている機会

ニューロダイバージェントの人は計り知れない価値を提供しているにもかかわらず、しばしば見過ごされています。多くは教育水準が高く、高度な技能を持っています。しかし、雇用主はワークプレイスでニューロダイバージェントの個人をどのように支援すべきか理解していないことが多く、このグループの未開発の潜在能力が埋もれたままになっています。ニューロダイバーシティを受け入れる組織は、インクルージョンを促進するだけでなく、競争上の優位性も獲得することになります。



15〜20%

世界人口において何らかの形でニューロダイバーシティを示す人の割合。



30〜40%

ニューロダイバージェントの成人で失業状態、あるいは不完全雇用状態にある人の割合。

85%

大学教育を受けた自閉症の成人で、失業状態にあるか、または不完全雇用状態にある人の割合。

調査＆知識

脳の差異を理解する

ヘイワースでは、包括性を念頭にデザインされたスペースが、あらゆる個人が最高のパフォーマンスを発揮することを可能にすると考えています。ニューロダイバーシティを支える環境づくりは、正しい用語の明確な理解から始まります。

簡単に言えば、特定の個人において脳の発達は異なり、脳の働きがより典型的な人（ニューロティピカル）とは異なる独自の強みと課題があります。ニューロダイバージェントの人には医学的な診断を受けている人もいますが、そうでない人もいます。

ヒント

グループについて言及するときは、「ニューロダイバース」という用語を使用します。(例：労働者はニューロダイバースです。)

ニューロダイバーシティ（神経多様性）

個々の脳機能と行動特性の自然な違いの範囲を指す用語です。この概念は、これらの差異が人間にとって正常であることを示しています。

ニューロダイバーシティに当てはまらない言葉：

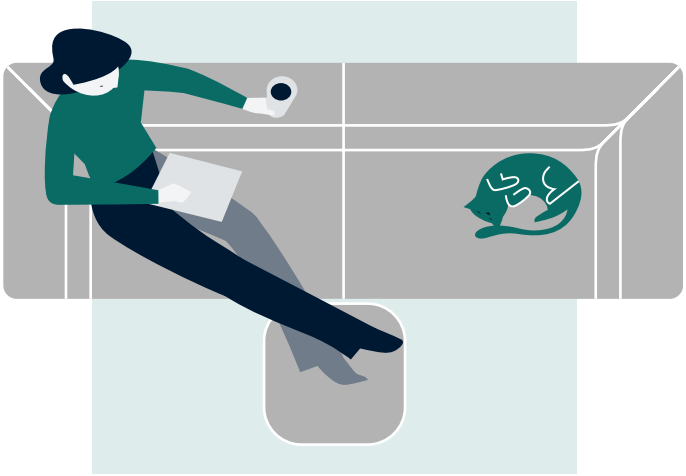
- ⊗ 医学用語
- ⊗ 特定の個人的特性
- ⊗ より良いタスク管理

ニューロダイバージェンス

行動、思考、世界との関わり方に影響を与える、人の脳の働き方の違いを指します。これらの違いは、自然な個人差です。

ニューロダイバージェンスに当てはまらない言葉：

- ⊗ 医学用語
- ⊗ 特定の診断
- ⊗ 治療されるべきもの



30% 向上

ニューロダイバースなチームの生産性の増加率

一般的な神経型

ニューロダイバージェンスには、さまざまな神経学的差異が含まれますが、これらに限定されるものではありません。

不安症

持続的な心配、恐怖、不安を特徴とする精神状態で、日常生活や意思決定に影響を与える可能性がある。

自閉スペクトラム症（ASD）

コミュニケーション、行動、感覚処理、社会的交流に影響を与える可能性のある発達上の差異。

注意欠陥・多動性障害（ADHD）

不注意、多動性、衝動性のパターンで、機能と発達に影響を与える可能性がある。

聴覚処理障害

脳が音、特に発話を処理および解釈する方法に影響を与える状態。

ダウン症候群

発達および知能の差異を引き起こす遺伝性の状態で、多くの場合、明確な身体的特徴を伴う。



算数障害

数字や数学的概念の理解に影響を与える学習上の差異。

書字障害

微細運動能力と筆記能力に影響を与える神経学的な状態で、書面での表現が困難になる。

失読症

主に読み、綴り、そして時には話し、書くことにも影響を与える学習上の差異。

発達性協調運動障害（発達性協調運動障害）

身体の協調性、動作の計画、そして時には発話にも影響を与える状態。

てんかん

反復性の発作と脳内の電気的障害を特徴とする神経疾患。

知的障害

知的機能と適応行動の制限を特徴とする状態。18歳未満で発症する。

強迫性障害（OCD）

繰り返し起こる望ましくない思考や、反復的な行動、または精神活動を特徴とする。

心的外傷後ストレス障害（PTSD）

トラウマ的な出来事を経験または目撃することで引き起こされる精神状態で、記憶や感情のコントロールに影響を及ぼす。

トゥレット症候群

チックと呼ばれる不随意運動や発声を特徴とする。

> **ご存じでしたか？** それぞれの神経の型は、異なる強みと貴重な視点をもたらします。多様な認知的・感覚的ニーズに応えるスペースを意図的にデザインすることで、誰もが支えられ、尊重され、また力を与えられていると感じられる環境づくりを支援します。

感覚処理

8つの感覚

インクルーシブなワークプレイスを構築するには、個人が環境をどのように認識し、体験するかを深く理解することが必要です。各スペースは利用者を支援するために独自にデザインされるべきですが、8つの感覚システムを理解することは、ニューロダイバーシティを受け入れる環境を創出する上で貴重なインサイトを提供します。



固有受容（筋肉と関節）

特定の身体部分の位置とそれに対応する動きに関する情報を提供する。

感度：身体部位への圧力と、動作や静止の状態における不快感の知覚。これにより、特定の動作（例：跳躍、揺れ、走行）を求めたり避けたりする欲求が生じることがある。



内受容（身体内部の感覚）

身体内の状態を知覚・理解し、感情的な反応を制御する方法など、身体の内部状態に関する情報を提供する。

感度：感情的反応が高まったり欠如したりする体験。自己認識、社会的理解、問題解決、集中力、柔軟な思考に影響を及ぼす可能性がある。



前庭（平衡感覚と動き）

スペースにおける位置、自身の動き、周囲の動きに関する情報を提供し、平衡感覚の維持や動作の協調を助ける。

感度：平衡感覚の変化は、注意散漫、めまい、吐き気、不安感を引き起こすほか、そわそわしたり、その他の自己鎮静行動を引き起こすことがある。



視覚（視力）

物体や人に関する情報を提供し、スペースを移動したり周囲とやりとりしたりするのに役立つ。

感度：光量、ちらつく光、まぶしさ、高コントラストのパターン、鮮やかまたは大胆な色、そして視界の正面や周辺に突然現れる人。



聴覚（聴力）

音量（大きいまたは小さい）、距離（近いまたは遠い）、方向などの環境音に関する情報を提供する。

感度：音量、特定の音程や音色、人の話し声や動きの音、繰り返される騒音。



嗅覚（匂い）

異なる匂いのタイプに関する情報を提供する（かび臭い、刺激臭、悪臭、花の香り、スパイシーな香り）。

感度：他人が中立的または心地よいと感じる匂いを、不快な匂いとして解釈する。食べ物、化学物質、香水、またはコロンなどの匂い。



味覚（味）

異なる味のタイプに関する情報を提供する（甘味、酸味、苦味、塩味、辛味）。

感度：味覚の喪失、特定の食物の食感に対する嫌悪感または嗜好。



触覚（感触）

圧力、質感をはじめ、硬さ、鋭さ、温度、痛みといった環境や物体の性質に関する情報を提供する。

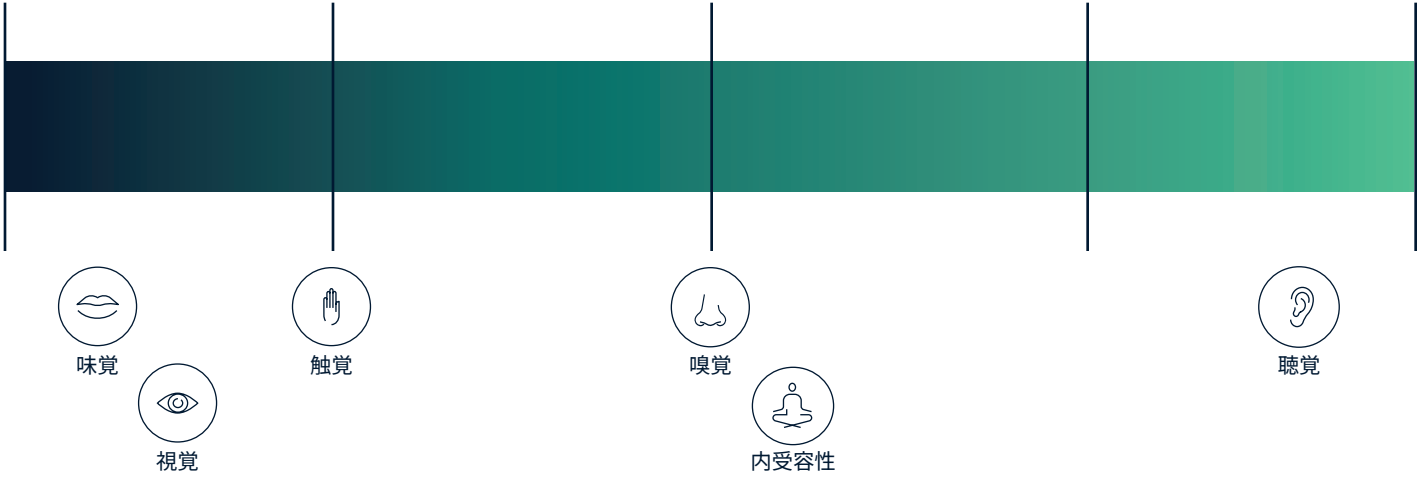
感度：特定の表面素材、硬さ・温度・空気質・湿度レベルの判別が困難。

多様で複雑な感覚的ニーズ

人はある要素に対して過敏でも、別の要素に対しては鈍感である場合がある。人に適切なツールを提供するとともに、制御性と柔軟性を確保することが不可欠である。

低感受性
外部刺激に対する感受性が異常なまでに低く、反応が鈍い状態

過敏症
外部刺激に対する高い認識と反応性



内的・外的感覚要因

内的要因

感覚の過敏さに加え、ニューロダイバージェントの人はワークプレイス体験に影響を与えるいくつかの内的要因に対処することがよくあります。これには以下が含まれます。

不確実性未知の経験や不確実な状況を予想することが困難な場合があります。例としては、毎日空いているデスクを見つけることや、新しい人に出会うことなどが挙げられます。

社会的期待：ニューロダイバージェントの人は、自身の行動に対して批判されていると感じることがあります。よくある例として、意思疎通における問題が挙げられます。

対処メカニズム：感情への対処や、インプットされる感覚の管理には、マスキング（行動を隠すこと）やスティミング（自己鎮静行動）といった方法が用いられることがあります。



94.4%

自閉症スペクトラム障害（ASD）がある成人で感覚の差異がある個人の割合。

外的要因

ニューロダイバージェントの個人の、オフィスでの体験に大きく影響する外部要因には以下があります。

方針：インクルーシブな政策は、リスクのある個人のストレスを大幅に軽減できます。これらの施策には、インクルーシブな採用・オンボーディング慣行、勤務場所の柔軟性、勤務スケジュールの自律性などが含まれる場合があります。

文化：多様性を尊重し称える文化は、帰属意識と受容感を育み、ワークプレイス体験全体を向上させることができます。

信頼：管理職と従業員に対する多様性と包摂性のトレーニングを提供することで、支援的な環境を育むことができます。これにより、ニューロダイバージェントの個人が採用された後、職務を遂行するために完全に支援かつ信頼されていると感じられると同時に、他者も自分を支援してくれると信頼することができます。

社会関係：ワークプレイスで支援的な上司や友人がいることは、ニューロダイバージェントの人のワークプレイス体験を大きく向上させることができます。

インクルーシブデザイン

アクセシブルなスペースの創造

インクルーシブデザインとは、あらゆる人間の多様性を考慮した手法です。このアプローチは、誰もが参加し、かつ帰属意識を感じられるスペースと製品を創造することを目的としています。このプロセスには以下の内容が含まれます。

- 代表的なユーザーグループを特定し、既存の排除や適応を分析することが、効果的なインクルーシブデザインに不可欠。
- 包括性をデザインプロセスに完全に統合し、より幅広い層に向けた製品やスペースの魅力を高め、使いやすさを向上させる。

ご存じでしたか？ ニューロダイバージェントの従業員は、集中力を要する作業を行うと、特に照明条件や音に関する環境刺激に対してより敏感になります。

5つのインクルーシブデザイン原則

1. 人のためのデザイン。
2. 多様性と違いを認める。
3. 単一のデザインソリューションですべての利用者をカバーできない場合、選択肢を提供する。
4. 使い勝手の柔軟性を提供する。
5. 誰にとっても便利で楽しいスペースと製品を創造する。

インクルーシブデザイン、ユニバーサルデザイン、アクセシビリティの定義

インクルーシブデザイン
製品やスペースを効果的に利用できない可能性のある、経験の多様性を考察する。

ユニバーサルデザイン
すべての人が最大限にアクセスし、利用可能な単一の体験を創出することを目指す。

アクセシビリティ
障害のある人が環境を利用できるようにすることに重点を置いている。

インクルーシブデザイン、ユニバーサルデザイン、アクセシビリティの類似点

- 排除とは、人とその環境の相互作用点で生じるということを認識している。
- 特定の状況下で、人が自身の能力に基づいて環境にどのように適応するかを観察し、そのインサイトをデザインに反映させている。
- 協力し合って障壁を減らし、製品やスペースをすべての人に利用しやすくする。

ワークプレイスで実現可能な感覚的サポート

インクルーシブデザインに関する考慮事項

インクルーシブデザインは、ニューロダイバースな労働者にとって、ワークプレイスが集中力、快適さ、帰属意識を育む環境となることを保証する上で重要な役割を果たします。以下のような質問を投げかけることで、従業員のニーズを評価し、感覚過敏性、認知負荷、柔軟性という観点からスペースのデザインにおける選択を行うことができます。

- スペースの評価と計画において、ニューロダイバージェントの人を含めていますか？
- 騒音レベル、照明、質感、香り、視覚刺激をどのように管理すれば、感覚過敏の程度が異なる個人に対応できるでしょうか？
- スペースは、認知的負荷を最小限に抑え、移動を容易にするために、明確なナビゲーション、構造化されたレイアウト、案内表示によって整理されていますか？
- 静かなゾーンやコラボレーションスペースなど、さまざまなワークセッティングは、個人が参加する活動をサポートする環境を選択できるようにしていますか？
- 個人に、自分の作業環境の要素を快適さに合わせて調整する能力がありますか？
- 個人のニーズに合わせたカスタマイズを可能にするスマートテクノロジーや補助ツールは利用可能ですか？
- 目立ちすぎるパターンを避けて素材と配色を選んでいますか？
- 使用されている色や素材は、特定のスペースで望ましい刺激のレベルに適していますか?
- 過敏性および低感受性の範囲に対応するようデザインされた多様なスペースを提供していますか？
- すべてのデザイン選択は、ニューロダイバーシティがある個人を含むすべての人にとって快適でインクルーシブな環境づくりに貢献しているでしょうか？

ニューロダイバーシティを考慮したデザインの基本原則



感覚に関する考慮事項

- 環境をコントロールできるようにする。
- 感覚刺激のレベルが異なるスペースを作る。
- 騒音と光の反射を抑える素材を使用する。



ナビゲーションと経路案内

- 明確で一貫性のある標識を設置する。
- 直感的なレイアウトを作成する。
- ナビゲーションには複数の手がかりを活用する。



柔軟性と選択肢

- 多様なスペースを提供する。
- 調節可能な家具と設備を提供する。
- 個人による環境のコントロールを可能にする。



視覚的快適さ

- 視覚的な雑然さを最小限に抑える。
- 落ち着いた配色を使用する。
- 安全のため、十分なコントラストを確保する。



音響における快適性

- 吸音材を組み込む。
- 異なる騒音レベルのゾーンを作る。
- 必要な場所では遮音性のプライバシーを提供する。

活動を支援するデザイン

感覚支援のためのデザインでは、人が行う具体的な活動を考慮してください。以下は、これに役立つ活動別の上位感覚的配慮事項です。



グループコラボレーション作業

グループスペースにおける聴覚的、視覚的、および内部的な注意散漫を最小限に抑える。

- スクリーン
- 密閉された部屋
- ユーザーがコントロールできる照明
- アクティビティ用プリセット照明



グループリフレッシュ/休憩

グループでリラックスでき、居心地の良いスペースを作る。

- さまざまなレベルの囲い
- 大小さまざまなグループに合わせたサイズバリエーション
- プリセット照明とユーザーがコントロールできる照明の組み合わせ
- 強い匂いがしない



個人ワークプレイス

さまざまなワークセッティングとユーザーによる個別設定用のコントロールを提供する。

- 異なるプライバシーレベル
- ユーザーによる温度調節
- ミーティングと会議
- 柔軟な家具



個人のリフレッシュ/休憩

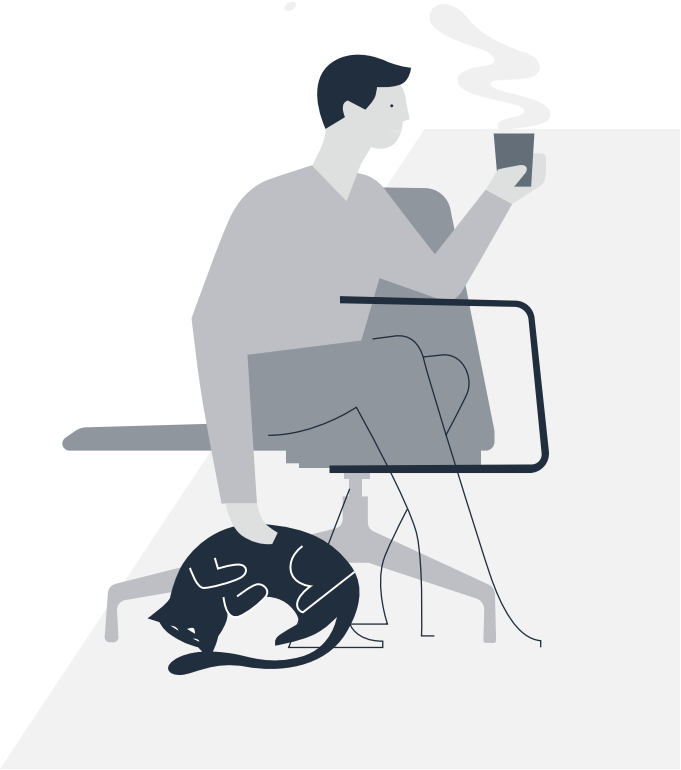
ワークプレイス環境から離れ、人が快適にリラックスできる静かなスペースを提供する。

- 音響コントロール
- 調節可能な照明
- 強い匂いがしない

ニューロダイバーシティのための ワークプレイス支援

使用方法と潜在的な影響

リサーチは、ワークプレイスの職務支援とニューロダイバージェントの従業員をサポートするツールに関するインサイトを示し、上位4つのワークプレイス支援に対する現在の使用満足度を示しています。



ご存じでしたか？ 建物の騒音は、ニューロダイバージェントの労働者とニューロティピカルの労働者の双方に悪影響を及ぼす可能性があり、ニューロダイバージェントの労働者の52%、そして驚くべきことにニューロティピカルの労働者ではさらに多い64%が、悪影響を報告しています。

ニューロダイバージェントの従業員のための ワークプレイス支援ツール

55%
ヘッドフォン

46%
リラクゼーション/瞑想アプリ

41%
調節可能なオフィスチェア

38%
高さの調節が可能なデスク



「花が咲かないときは、改善すべきはその生育環境であって、花そのものではない。」

Alexander Den Heijer



ニューロダイバーシティ（神経多様性）

アプリケーション

ワークプレイスフロアプレート策定における一般的なデザイン上の考慮事項

フロアプレートにおいて、ニューロダイバーシティへの配慮を伴うインクルーシブデザインのカギは、選択肢を提供することにあります。

視覚的、触覚的、色分けされた要素など、複数の手がかりを用いた明確な経路案内システムを導入しましょう。秩序と予測可能性を加えて内受容感覚をサポートし、人がスペースと関わるにあたって気持ちの準備ができていると感じ、また安全で快適に過ごせるように支援します。標識、建築的特徴、ランドマーク、視覚的なアクセスポイントを組み込みます。建築的特徴、ランドマーク、視覚的アクセスポイント。

自然な移行で明確なゾーンを作ります。明確に定義されたスペースは、人が理解し、それぞれの特定のニーズに応じて利用し易いものです。隣接関係と、活動のレベルを示す境界を検討しましょう。騒音の伝播を避けるために、活動が活発なスペースは活動の少ない集中のためのスペースから離して配置します。中程度の活動スペースと閉鎖されたスペースを緩衝地帯として使用しましょう。

サウンドマスキングを使用しましょう。このシステムは、背景会話や機器の使用音、 その他の建物内の騒音といった気が散る音を遮るのに役立ちます。

アクセスしやすい経路を作りましょう。通路は広く、鋭角のないものにしましょう。これは視覚、前庭感覚、および固有受容感覚をサポートします。

さまざまな動きに対応できる部屋を含めましょう。これは前庭感覚と固有受容感覚をサポートし、身体を揺らす、回転する、横たわる、瞑想する、またはダンスするためのスペースを提供します。

個々のユーザーがコントロールできるようにしましょう。これには、照明、音響、温度、あるいは換気を調節できる装置を可能な範囲で追加するようにすることが含まれます。適切なプライバシーレベルを備えた多様なスペースを創りましょう。

適切なプライバシーレベルを備えたスペースを創ります。各スペースで行われる活動と利用者を考慮します。囲いのあるスペースとミーティングルームを提供し、視覚的・聴覚的な妨げを減らします。

強い匂いを抑えましょう。フードサービスエリア、備品室、清掃用具収納庫を隔離します。

質問事項：

インクルーシブデザインのプロセスを開始し、デザイン目標を決定するには、以下の質問をガイドとして活用してください。

- スペースは何に使用するのか？
- 誰がスペースを使うのか？ どのくらいの頻度で？
- そのスペースは、多様な感覚的ニーズや嗜好にどのように対応できるか？
- そのスペースは、感覚に配慮した要素（照明、音響、質感）をどのように取り入れるのか？
- 特に軽減または回避すべき感覚的な要素はあるか？
- そのスペースはどのような雰囲気を生み出すか？

目的・目標の明確化：

これらの質問をしたら、以下のいずれかのデザイン目標が明確になるでしょう。

- ミーティング、食事、交流など、さまざまな感覚的嗜好に対応できる集いの場を創り出す。
- 感覚に配慮した設備が選択可能で、集中して作業できる、静かな環境を整える。
- 柔らかな照明や自然の音といった感覚に優しい要素を取り入れリラックスと活力を取り戻すスペースをデザインする。
- さまざまなアクティビティをサポートするゾーン分けによって最大限の柔軟性を与え、多様なニーズに合わせてスペースが適応できるようにする。

スペースを評価する。

さらに、以下の機会を評価し、感覚支援を提供するスペースを検討します。

- 快適さと刺激を提供する感覚に優しい特徴（照明、音響、質感）を中心とした環境デザイン。
- 異なる質感（カーペット、ハードウッド、ソフトシーティング）が存在する、または感覚的嗜好を考慮して容易に組み込める領域。
- 広いスペース内に個別のエリアや「部屋」を創出する可能性があり、開放的な環境と閉ざされた環境の両方を提供する選択肢。
- プライバシーや感覚を制御するための仕切りなどの要素を用いて定義された構造を創り出す選択肢。
- すべての利用者が快適に利用できるように、感覚過負荷（騒音、明るい光）から保護する。


D
J
C
B
D
I
F
D
H
E
G
C
A

フロアプレートの例

多様なスペースが一体となったフロアプレートを形成し、快適で移動しやすい環境で選択肢を与えることで、ニューロダイバースな労働者をサポートします。

A レセプション

訪問者を歓迎するスペース。明確に定義されたスペースがエネルギーと社会的交流を提供します。

B ワークカフェ

ワークカフェは、賑やかで社交的な雰囲気の中でさまざまな活動が行えるスペースです。

C コミュニティ

コミュニティスペースはフロアプレートの社交の中心地です。グループスペースから自然の景色を望む静かなゾーンまで、さまざまなレベルの刺激を提供します。

D ワークステーション

ワークステーションのセットアップ形態によって、プライバシー、集中力、コラボレーションのレベルが異なります。

E ライブラリーラウンジ

ライブラリーラウンジは、個人やグループが集中して作業できる静かな場所として機能します。この場を安全な避難所として保つためには、定められたユーザー規約が役立ちます。

F フォーカスルーム

集中作業やビデオ/電話でのミーティングをサポートする個室スペースは、高いプライバシーを確保し、内外からの騒音が作業の妨げにならないようデザインされています。

G リフレッシュルーム

リフレッシュ用スペースは、感覚刺激からの休憩を必要とする従業員の休憩場所として機能します。異なる種類の家具や配置を提供し、さまざまな方法で再調整できるようにします。

H 囲まれたコラボレーションスペース

これらのエリアでは、騒音による妨げを最小限に抑えつつ、さまざまなツールや機器を用いてグループで共同作業を行うことが可能です。

I 開かれたンコラボレーションスペース

作業スペースの近くに配置されることが多く、迅速なチームコラボレーションを可能にします。ユーザーが操作する音響的・視覚的なプライバシー対策がさまざまなレベルで装備されています。

J フォーカスブース

高い音響プライバシーを備えたコラボレーションの代替手段。フロア全体に分散配置され、誰でもアクセスできるようになっています。

さまざまなスペースのデザインプランニング

ニューロダイバーシティに配慮したデザインの目標は、ニューロダイバージェントの人にとって快適で生産性を高めるあらゆるスペースを作り出すことです。デザインの指針として、色分けされたアイコンを使用してスペースの用途を識別してください。

強い印象を与える

雰囲気を決定づけ、印象をもたらすスペース。人が企業文化やブランド性に受ける印象とつながり方に影響をもたらします。

くつろぐ＆つながる

静かにくつろげるスペースまたはコミュニティスペース。ウェルビーイングを向上するために人が休憩し、くつろぎ、交流できる場所です。

チームエンゲージメント

フォーマルまたはカジュアルなコラボレーションスペース。アイデアの創造や戦略的アクティビティ、学習を行うスペースで、通常人の行き来が多い場所から離れた場所にあります。

個人フォーカス

集中力、深い仕事、プライバシーをサポートするためにデザインされた専用エリア。これらのスペースは、注意散漫を最小限に抑え、認知能力を最大限に発揮することを可能にします。



レセプション

レセプションは、温かく歓迎的な雰囲気で、誰もに好印象を与え、記憶に残るスペースであるべきです。全ての訪問者に快適で利用しやすいシーティングを提供し、ブランドの基調と文化を形作ります。



デザイン上の考慮事項

- ナビゲーションと経路案内：文字と記号の両方を使用した明確な案内表示を設置してください。スペース内を移動しやすくするために、建築上の特徴、照明、床材などの固定要素を活用します。
- 外観と感覚：視覚的な混乱を引き起こす可能性のある、コントラストの強い色や模様は避けてください。そのスペースに入った時に人が受ける感覚的印象を考慮し、心に残る印象を生み出す素材と仕上げを選択します。
- セッティングと家具：メインの動線から離れた静かな待合スペースを設けます。さまざまな座り心地（例：硬い/柔らかい、肘掛け付き/なし）のシーティング選択肢を提供します。
- 照明：まぶしさを抑えた照明を使用し、強い光を最小限に抑えます。可能な場合は自然光を採り入れた調節可能な照明ゾーンを設置します。
- 音響：防音要素を設置し、反響を抑えるとともに、隣接エリア間の音の伝播を減らします。


DIRECTORY
1
ATRIUM
STAIRS
RESTROOMS
OFFICE ADMIN
EXECUTIVES
HUMAN RESOURCES
FINANCIAL SERVICES
MEETING ROOMS
2
MEETING ROOMS
LOUNGE
STAIRS
RESTROOMS
INFORMATION TECHNOLOGY
KITCHEN
SOFTWARE DEVELOPMENT
EVENT PLANNING
BALCONY
OASIS
Cafe

ワークカフェ

ワークカフェはオフィスの中心として機能し、人の集いを促します。多目的なソーシャルハブとして、軽食や飲み物、さらに人が気軽に交流しリラックスできる場を提供します。このスペースではまた、部門横断的なチーム間の非公式な会話の場を提供し、異なる快適さのレベルや感覚的な好みに応えます。



デザイン上の考慮事項

- ナビゲーションと経路案内： 色、標識、壁、スクリーン、天井の高さの変化を用いて、異なるゾーンとスペースの閉鎖レベルを明確に区別します。
- 外観と感覚： 耐久性があり、簡単に清掃できる素材を使用し、衛生状態と外観を維持してください。
- セッティングと家具： 多様なシーティング、テーブル、電源接続オプションにより、さまざまな業務、交流、リラクゼーション活動をサポートします。活気ある環境とのつながりを保ちつつ、静養の場、仕事場、あるいはくつろぎの場として、それぞれ異なるプライバシーレベルを備えた個別のスペースを作ります。
- 嗅覚・味覚： 味覚過敏のある個人のために、多様な味と食感を提供するための収納・提供方法を用意します。他のエリアとの近接性を考慮し、食品の匂いを管理するため適切な換気を確保してください。



コミュニティ

この広々とした、開放的で柔軟なスペースは、さまざまな活動やグループ規模に対応し、テクノロジー設備、軽食、快適な家具を装備しています。柔軟な家具は、コラボレーション、社会的交流、個人およびグループ活動に対応します。



デザイン上の考慮事項

- ナビゲーションと経路案内：色彩、標識、家具要素、照明を用いて明確な区域を定義し、経路案内を支援します。視認性と認識を高めるため、視界を妨げないようにしてください。
- 外観と感覚：衛生状態と外観を維持するため、耐久性があり、簡単に清掃できる素材を検討してください。
- セッティングと家具：仕事、交流、リフレッシュ、そして静養といった活動を支える、活発なゾーンと静かなゾーンを設けます。多様な姿勢、快適性、プライバシーを、さまざまなシーティング、テーブル、スクリーン、またはブースにより実現します。
- 音響：音響処理を施して騒音レベルを管理します。
- テクノロジー ディスプレイモニターを統合して、ブランドメッセージの伝達、コラボレーション、コミュニケーション、そしてエンターテインメントを支援します。複数の電力供給、充電、接続オプションを提供します。



ワークステーション #1

この適応性のあるチームワークプレイスのバリエーションは、チーム環境をシェアする際に個人の視覚的・感覚的ニーズに対応します。柔軟なセットアップにより、各々が周囲の同僚と関わりつつ、視界や周辺に直接入り込む人物による注意散漫を最小限に抑えるよう、向きを調整できます。



デザイン上の考慮事項

- ナビゲーションと経路案内：コラボレーション作業と集中作業のセッティングを区別するための明確な視覚的手がかりを作成します。
- セッティングと家具：個人が一日のうちで感覚的なニーズの変化に合わせて向きを変えられるワークステーションを提供します。作業スペース間の適切なパーソナルスペースを確保し、過剰な感覚的刺激の負荷を軽減します。
- 人間工学 必要に応じて姿勢や動きの変化に対応できる高さ調節可能なテーブルを提供します。複数の調整ポイントを備えた人間工学に基づくタスクチェアを装備し、個人に合わせた快適性と柔軟性を実現します。



ワークステーション #2

オープンオフィス内のこれらの個別のワークプレイスは、コラボレーションと効率的なスペース利用を促進します。オープンレイアウトにより、コミュニティ意識が促進され、チームの結束が強化されると同時に、ユーザーはワークステーション内の要素を制御してプライバシーを確保できます。



デザイン上の考慮事項

- ナビゲーションと経路案内：照明やペンダントライト、グリーンウォールなどの建築要素を、案内ツールとして活用し、移動の補助とします。
- 外観と感覚：多くの利用者にとって過度な刺激となる高コントラストのパターンは避けてください。緑や自然をモチーフにしたパターンなどのバイオフィリック要素を取り入れ、アウトドアとの心地よい繋がりと繊細な視覚的刺激を提供します。視覚的な雑然さを最小限に抑え、整頓されたワークプレイスを維持するための収納ソリューションを含めます。
- セッティングと家具：作業スペース間に十分なスペースを確保し、個人のスペースを確保するとともに混雑を軽減します。調整可能なプライバシースクリーンを提供し、個人が視覚的なプライバシーのレベルを自由に設定できるようにします。
- 照明：角度と光の調整機能を備えた個別のデスクライトを組み込むことで、各々がニーズに合わせて照明をカスタマイズできます。



ワークステーション #3

専用のフォーカスゾーン内のこれらの個別のワークプレイスは、オープンな環境で中断されることなく作業を行うことを促進します。オープンなレイアウトにより、広いワークプレイスとのつながり感を保ちながら自然光が差し込みます。ユーザーはワークステーション内の要素をコントロールして、エクスペリエンスをパーソナライズし、気を散らすものを最小限に抑えることができます。



デザイン上の考慮事項

- ナビゲーションと経路案内：ペンダント照明や、低い天井高などの建築要素を、道案内を補助し、かつスペースの用途を伝えるツールとして活用します。騒音の伝達を軽減するために、活動が活発なゾーンから離れた場所に配置します。
- セッティングと家具：独立したスペースであるレストラティブルームや電話ルームに近いため、スペースの活動が少ない印象を与えます。使用時や移動時に視覚的・聴覚的な邪魔にならない家具を選びましょう。
- 外観と感覚：多くの利用者にとって過度な刺激となる高コントラストのパターンは避けてください。高いスクリーンは視覚的なプライバシーを保護し、個別のポッドを作成して集中した個人作業を促進します。
- 音響：音響吸収を助けるカーペットやソフトな家具など、音響対策を全体に取り入れます。高いデスクスクリーンとアコースティック照明は、聴覚による妨害を最小限に抑えるのに役立ちます。


03
Focus

ライブラリーラウンジ

専用のライブラリーラウンジは、集中して作業したり、静かにグループワークを行う場所として利用できます。このスペースはリラックスした姿勢をサポートし、聴覚と視覚のプライバシーを提供します。柔らかな照明、ラグ、温かみのある心地よい素材が触覚体験を向上させ、ニューロダイバージェントの人が快適に過ごせる落ち着いた雰囲気を作り出します。



デザイン上の考慮事項

- ナビゲーションと経路案内：人が安心してスペース内を移動できるよう、明確な標識と道案内を用意します。ラウンジは主要な交通エリアから離れた場所に位置しつつも、アクセスしやすい場所にしてください。天井が低いと、スペースの使い方が伝わりやすくなります。
- 外観と感覚：耐久性がありながら、手触りが柔らかく、外観も落ち着いた素材の選択肢を優先してください。調整可能な照明オプションを組み込むことで、個人が環境をカスタマイズできるようにします。
- セッティングと家具：社交的な交流から、リフレッシュや静養の目的までさまざまなアクティビティに対応します。個別のラウンジピース、ソファ、セクショナルソファ、バンケットソファなどのソフトシーティングソリューションを使用して、さまざまなアプリケーション、快適性、プライバシー要件を考慮します。
- 音響：ブース、スクリーン、またはパーティションを使用してスペースを分割し、視覚的なプライバシーを確保し、音響を強化します。


Where silence sings.

フォーカスルーム

小さく囲まれたスペースは、フォーカスした個人作業、休憩、または短期使用のためにデザインされています。スペースは必要とする人なら誰でも利用できるため、適応性を必要とします。基本的に、これらのスペースは、高さ調節可能なデスク、人間工学に基づいたシーティング、調節可能な照明などのユーザーによるコントロールと機能を備えている必要があります。

デザイン上の考慮事項

- 視覚とプライバシー 反射しない表面を採用し、視覚的な妨害を最小限に抑えます。必要に応じて視覚的なプライバシーを確保するために、ガラス張りの部屋にはカーテンやフロスト加工を検討します。環境をカスタマイズするために調節可能な照明コントロールを設置します。
- テクノロジー 空き状況が判断できるように明確な占有状況インジケーターを提供します。接続と充電のためにWi-Fiと電源コンセントに簡単にアクセスできるようにします。
- 外観と感覚：環境に刺激を求める人と落ち着いたスペースを好む人の両方に応えられるよう、タッチダウンエリア全体で色や仕上げに変化を与えます。快適性のために調節可能な換気オプションを備えます。
- 音響：隣接するスペースからの騒音を防ぐために、優れた遮音性を確保しましょう。



リフレッシュルーム

リフレッシュ用スペースは、感覚刺激からの休憩を必要とする従業員の休憩場所として機能します。これらの静かなエリアには、ソフトシーティング、ニュートラルな色、落ち着いた照明など、心を落ち着かせる重層的な要素を取り入れます。リラックス効果を高めるために、植物、自然にインスパイアされたビジュアル、屋外の景色などのバイオフィリックな要素を取り入れましょう。



デザイン上の考慮事項

- 視覚とプライバシー カーテンを追加してミクロ環境を作成し、聴覚と視覚入力をコントロールします。窓から静かな屋外の景色を眺めることができます。
- 外観と感覚：アクセス性を維持しながら、人通りから離れた場所に静養のためのスペースを配置します。自然の要素を加えると心を落ち着かせる効果が高まります。さまざまな質感のシーティングを提供しましょう。
- 感覚的な快適さ：各々が快適に過ごせるよう、温度調節ができるようにします。感覚に優しい要素を追加します：加重ブランケット、運動スペース、フィジェットツールなど、好みに従って自己調整できるようにサポートします。必要に応じて窓を個人が閉じることができるようにします。



閉ざされたコラボレーションスペース

閉ざされたコラボレーションスペースはプライバシーと環境制御を向上させ、集中的なコラボレーションと高い機密性を伴うディスカッションを促進します。また、さまざまな会議スタイルや感覚的なニーズに対応できるような家具構成も用意します。



デザイン上の考慮事項

- セッティングと家具：移動をサポートし、自由に向きを調整できるように、キャスター付きのタブレットチェアを用意しましょう。個々で移動したり調整したりできるよう、立ったまま使える高さのテーブルを用意します。柔軟なアクセサリーと主要な家具により、ユーザーのニーズに合わせて変更できるスペースを確保します。
- 外観と感覚：快適さのレベルや好みに合わせて、さまざまなシーティングオプションを提供します。グループの多様なニーズに対応できるよう、調節可能な照明を用意します。
- 音響とプライバシー 聴覚妨害を軽減するために、吸音材やサウンドマスキングシステムを使用します。視覚的妨害を防ぐために、カーテンを使用したり、ガラスの壁にフロスト加工を施したりします。


Conference Room A

オープンコラボレーションスペース

オープンな会議スペースは、柔軟性と適応性を提供しながらコラボレーションを促進します。目標は、認知作業を可能にしながら気を散らすものを減らすバッファーを使用して、開放感とプライバシーのバランスを実現することです。



デザイン上の考慮事項

- セッティングと家具：グループワークをサポートするために、大きな固定テーブルを用意します。動きや微調整を促進するキャスター付きチェアを使用します。動きや姿勢の選択をサポートするために、二段階の高さの表面を組み込みます。
- 外観と感覚：スクリーン、家具、建築要素を緩衝材として戦略的に配置し、気を散らすものを最小限に抑え、認知作業をサポートします。さまざまな感覚的嗜好に合わせて照明レベルを調整できるようにします。
- 音響とプライバシー 聴覚妨害を軽減するために、吸音材やサウンドマスキングシステムを使用します。カーテンやスクリーンを使用して半密閉スペースを作り、スペース内にいる人と外部の近くにいる人の両方に対する聴覚と視覚の妨害を制御します。



アコースティックブース

アコースティックブースは、オープンプランのエリア内に静かで密閉された会議スペースを提供します。コンパクトなモジュールデザインにより、恒久的な建設を必要とせず、柔軟な配置が可能です。ブースは騒音を低減するようにデザインされており、集中した会話、バーチャル会議、小グループのコラボレーション、または心を落ち着かせる休息に最適です。



デザイン上の考慮事項

- スペース計画：チームのワークスタイル、プライバシーのニーズ、利用可能なフロアスペースを反映したポッドのサイズと機能を選択します。ブースは自然な動きをサポートし、主要な動線を妨げないように配置します。
- 外観と感覚：耐久性があり、落ち着きがあり、心地よい回復をサポートする仕上げと素材を検討してください。調節可能な照明と換気を備え、快適性と感覚のニーズに合わせて環境をカスタマイズできるようにします。
- テクノロジー さまざまなデジタルツールとコラボレーションのニーズに対応できる電源と接続性を確保します。予約システムを備えたブースをいくつか設置することで、従業員間での公平な使用が保証され、アクセスできないことによるストレスが軽減されます。





ニューロダイバーシティ（神経多様性）

ソリューション

製品カテゴリー

ヘイワースは、ニューロダイバーシティデザインのニーズを満たすさまざまなソリューションを提供します。当社の幅広いポートフォリオとブランドファミリーにより、今日のワークプレイスに必要な柔軟性と選択肢を提供できます。当社のポートフォリオから、個性を尊重し、ウェルビーイングを促進し、革新的なつながりを育む製品ソリューションのインスピレーションとなる事例をご紹介します。

シーティング

オフィスチェア
Zody II



ミーティングチェア
サイドテーブル付きMaari チェア



ゲスト＆サイドチェア
Poppy



ソファ
Cabana



プーフ＆オットマン
Chic プーフ



スツール
Maari スツール



ラウンジチェア
Cardigan



デスク＆テーブル

デスク
YourPlace Echo



ミーティングとコラボレーション **Planes**



サイドテーブル
Pip



ブース＆パーティション

アコースティックブース＆ポッド **Hush**



パーティション＆スクリーン **Collaborate Screens**



収納

ロッカー
Be_Hold Smart



アクセサリー

テーブル照明
Pablo Circa



フロア照明
BuzziJet Standing



天井照明
BuzziPleat Light



ラグ
Mangas Space



出典

トレンド

ニューロダイバージェントの従業員の増加 Moses, Amanda. “Why Has There Been a Rise in Autism and ADHD Diagnoses?” Psychology Today. 最終更新日：2023年7月14日。閲覧日：2025年3月27日。https：//www.psychologytoday.com.

感覚過敏性： Weddle, Brooke, Bryan Hancock, and Lucia Rahilly. “What Neurodivergent Employees Need to Succeed.” McKinsey & Company、2024年4月。

ワークプレイスにおけるストレス管理： Weddle, Brooke, Bryan Hancock, and Lucia Rahilly. “What Neurodivergent Employees Need to Succeed.” McKinsey & Company、2024年4月。

メンタルヘルスの統合： Weddle, Brooke, Bryan Hancock, and Lucia Rahilly. “What Neurodivergent Employees Need to Succeed.” McKinsey & Company、2024年4月。

ニューロダイバーシティと戦略的デザイン： Gartner. Hype Cycle for the Future of Work 閲覧日：2024年。2024年7月18日。

文化とポリシーへの影響： Gartner. Hype Cycle for the Future of Work 閲覧日：2024年。2024年7月18日。

才能重視のデザインアプローチ： “New ZenBusiness Research Finds Class of 2023 Sees Neurodiversity as an Asset in Leadership & Is Primed to Be the Most Entrepreneurial.” Business Wire. 最終更新日：2023年7月14日。閲覧日：2025年3月27日。

テクノロジーによるパーソナライゼーション： Gartner. Hype Cycle for the Future of Work 閲覧日：2024年。2024年7月18日。

ハイブリッドワークの進化： Haworth, Inc. Global Evolving Workplace Study：Hybrid Work Evolution. 2025年。

ニューロダイバーシティを考慮したデザインはなぜ重要か

帰属意識の文化を育む： Glassdoor. “What Job Seekers Really Think About Your Diversity and Inclusion Stats.” 2021年。閲覧日：2024年5月6日。https://www.glassdoor.com/blog/diversity/

帰属意識の文化を育む： Jimenez, Jacinta, PsyD. “Why Psychological Safety at Work Matters and How to Create It.” 2022年。閲覧日：2023年10月24日。

帰属意識の文化を育む： Copsey, Scarlett. “Using Design to Create an Inclusive Workplace.” Interaction, UK. 閲覧日：2023年11月17日。

ご存じでしたか？ McKinsey & Company. Diversity Wins：How Inclusion Matters. 2020年。閲覧日：2023年11月17日。

主な調査結果： McKinsey & Company. Diversity Wins：How Inclusion Matters. 2020年。閲覧日：2023年11月17日。

調査＆知識：ニューロダイバーシティ（神経多様性）とは?

脳の違いを理解する： Cleveland Clinic. “Neurodivergent.” Health Library. 閲覧日：2024年2月13日。

脳の違いを理解する： Oxford University Press. “Neurodiversity.” In Oxford English Dictionary. 閲覧日：2025年5月20日。https：//doi.org/10.1093/OED/8409557016

生産性の向上： Centers for Disease Control and Prevention. Autism Spectrum Disorder Data and Statistics. Atlanta, Georgia：U.S. Department of Health and Human Services, Centers for Disease Control and Prevention、2022年。

一般的な神経型

一般的な神経型：Cleveland Clinic. “Neurodivergent.” Health Library. 閲覧日：2024年2月13日。

感覚処理

8つの感覚：Neurodivergent Insights. “8 Senses of the Body：The Hidden Sensory Systems.” 閲覧日：2025年7月23日。 https://neurodivergentinsights.com/8-senses

ASDの感覚の違い： Crane, Laura, Lucy Goddard, and Linda Pring. “Sensory Processing in Adults with Autism Spectrum Disorders.” Autism, 13 (3) (2009): 215–28. https://doi.org/10.1177/1362361309103794

インクルーシブデザイン

インクルーシブデザイン：Inclusive Design Research Centre. “What Is Inclusive Design.” OCAD University. 閲覧日：2024年2月1日。

ご存じでしたか？ Bott, Jennifer, Kristin Reddick, Aaron Haworth, Eric Novotny, and Amilia Wallace. “Supporting Sensory Needs in the Workplace：A Comparison of Neurodivergent and Neurotypical Employee Experiences.” Holland, MI、2025年8月。

ニューロダイバーシティのためのワークプレイス支援

ワークプレイスで役立つトップアイテム： Bott, Jennifer, Kristin Reddick, Aaron Haworth, Eric Novotny, and Amilia Wallace. “Supporting Sensory Needs in the Workplace：A Comparison of Neurodivergent and Neurotypical Employee Experiences.” Holland, MI、2025年8月。

ご存じでしたか？ Bott, Jennifer, Kristin Reddick, Aaron Haworth, Eric Novotny, and Amilia Wallace. “Supporting Sensory Needs in the Workplace：A Comparison of Neurodivergent and Neurotypical Employee Experiences.” Holland, MI、2025年8月。

いかがでしたか？ 当社の幅広い製品ポートフォリオにより、ニューロダイバーシティを受け入れ、サポートするインクルーシブなワークプレイス環境の構築をお手伝いします。

haworth.com/ap
haworth.com/eu
をご覧ください。

HAWORTH® はHaworth, Inc.の登録商標です。
©Haworth, Inc. All rights reserved. 2026
haworth.com/ap
haworth.com/eu